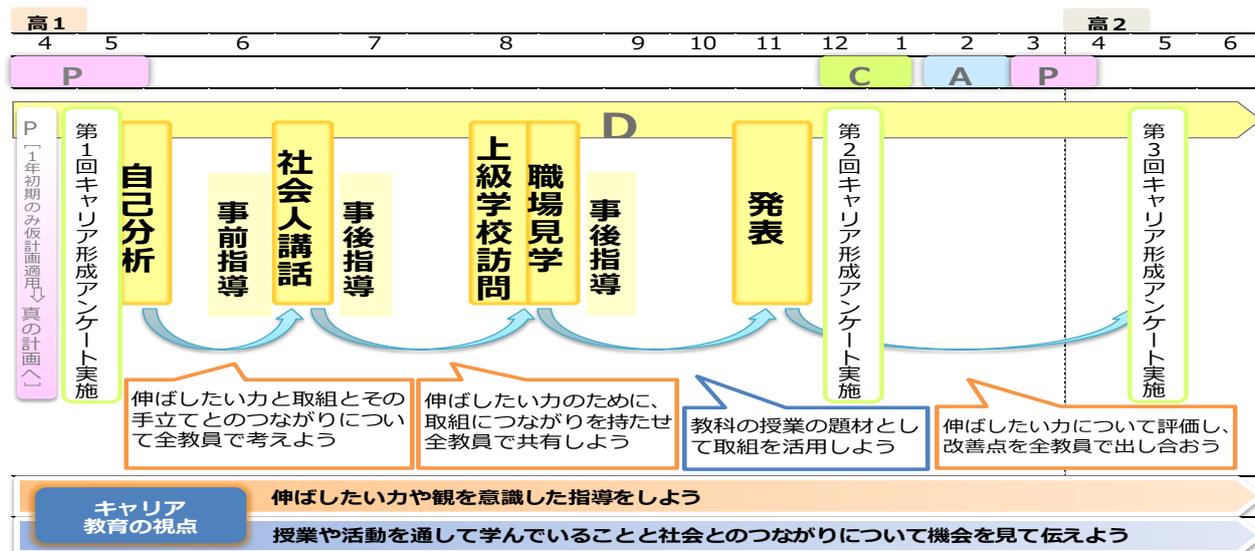


《高等学校普通科1年次 指導モデル (例) 社会人講話》



○指導にあたって

効果的な指導のために、この例のように、社会人講話において、その行事を単発で行うだけでなく、事前や事後を含め、生徒の伸ばしたい力と関連付けてつながりを持たせて指導を行っていくことを提案したい。この指導モデルはあくまで参考例であり、それぞれの学校の行事の流れや取組を活用し、伸ばしたい力を高めるために、取組・体制につながりを持たせることが重要である。また、表には、取組のPDCAのポイントをまとめている。

(例) [伸ばしたい力]: 他者の考えや立場を理解する・相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝える (=他者理解・コミュニケーションスキル) ⇒ 「人間関係形成・社会形成能力」主体的に行動できる ⇒ 「自己理解・自己管理能力」

[自己分析]: 自分の考え・自分の興味や関心・考えの整理のため

[社会人講話事前指導・調べ学習]: 様々な仕事の内容を知るとともにどのように社会に貢献しているかを学ぶ・授業を通して調べて気付いたことを他者に分かるように伝える

[社会人講話]: 実際の社会人の考えや立場を理解する・自分がどのように生きたいか、いま何をすべきかなどについて考えてまとめる・授業を通して気付きを相手理解できるように友人に伝えるとともに、他者の考えを理解するなどコミュニケーションスキルを高める

[上級学校訪問・職場見学]: 事前学習により興味・関心がある学問分野や仕事の内容をあげるとともに、その学校や企業について主体的に調べ、各自が手配を行う中で、主体性を育てる

[発表]: クラスやグループなどの場面で気付きを発表し伝えあう中で、伸ばしたい力を高めていく

ポイント	具体例
P ・全教員で目標を設定 ・全教員で取組・体制・つながりを検討	取組における目標や、取組のつながりやその手立てについて、担当を交えて学年会で確認・検討を行い、目標と手立ての共有化を図る
D ・伸ばしたい力を意識し全員で指導 ・学年団や分掌等での連携 ・「教科の授業」「日常のやりとり」等において「学習と社会のつながり」を意識した指導を実施	事前・事後指導では役割をそれぞれが持ち全員で関わるとともに、方法等について情報の共有を行う 生徒の気付きや考えについて授業や日常での声掛けを行う 取組で学んだことから教科の学習とのつながりについて伝える
C ・キャリア形成アンケートを活用	この取組で伸ばしたい力・観についてのキャリア形成アンケートを事前と事後に実施する(短い期間での結果を見たい場合)
A ・観察・面談・面接等を通して生徒の変化を確認 ・生徒の変容から取組の効果について振り返りを実施 ・改善点について学年・分掌・教科で確認し、次年度への対策を考える	観察のほか、面談やキャリアノートを利用するなどし、質的な変化をみとる 伸ばしたい力・観に伸びが見られたかについてキャリア形成アンケートの結果について学年団で結果を共有する(短期間での変容確認を行った場合) それぞれが目標と手立ての振り返りを行い、学年会・分掌会を活用し、改善点を出し合う